

4

2016 | No.384



### マッコウクジラ

世界一の潜水能力を持つほ乳類マッコウクジラは、3,000mまで潜った記録を持ち、生涯の3分の2を深海で過ごす。

# JAPICNEWS

**JAPIC**  
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

## Contents

### 巻頭言

「日薬連を取り巻く情勢とくすりの恩恵」

日本製薬団体連合会 常務理事 野瀬 耕二 …… 2

### インフォメーション

発刊!『JAPIC医療用医薬品集 普及新版2016』…………… 4

薬系大学新1年生向けに日本の医薬品 構造式集 2016を無償提供!…………… 4

平成28年度JAPICユーザ会開催案内…………… 5

平成28年度 学会等 出展予定…………… 5

発行しました。

JAPICガイド2016 …………… 5

### コラム

最近の話題「不測の災害発生に備え」

一般社団法人宮城県薬剤師会 常任理事 災害対策委員会委員長 高橋 文章 …… 6

くすりの散歩道 No.95「くすり ことば ところ」

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 山田 耕司 …… 8

おすすめの一冊「中华人民共和国薬典 2015年版」…………… 9

### トピックス

JAPICサービスの紹介

「PharmaCross」サービス開始のご案内 …………… 10

生物由来製品の感染症情報提供サービス …………… 12

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より-(抜粋)…………… 14

図書館だよりNo.310 情報提供一覧…………… 15

## 日薬連を取り巻く情勢とくすりの恩恵

日本製薬団体連合会 常務理事  
野瀬 耕二 (Nose Koji)

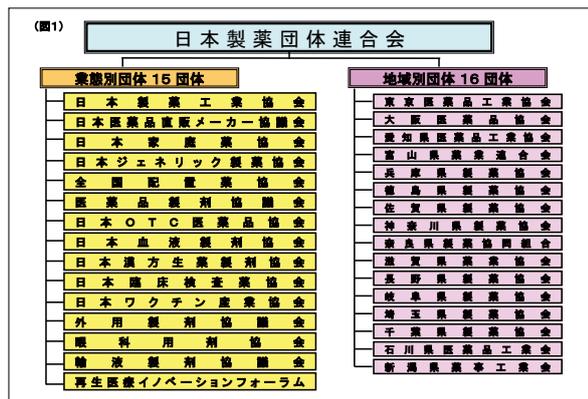


平成28年度最初に発刊されるJAPIC NEWSの「巻頭言」を寄稿させて頂く機会を頂き、身に余る光栄に存じます。

最初に日本製薬団体連合会（以下、日薬連）の紹介をさせて頂きます。日薬連は昭和23年10月16日に設立された世界に類を見ない製薬企業の業態別団体と地域別団体から構成される連合体として今年で68年目を迎えます。

平成28年4月1日現在、医薬品製造業者を会員とする地域別団体16団体、業態別団体15団体により構成されています。

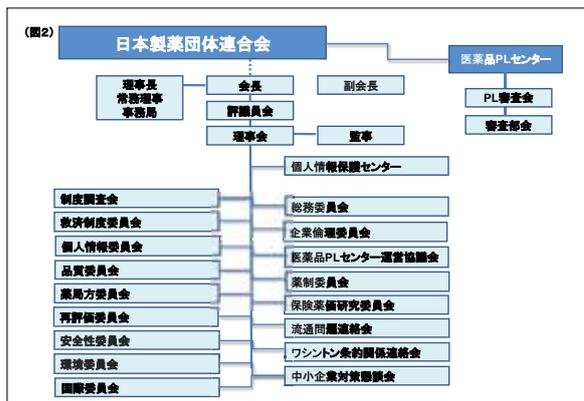
地域別団体は東京、大阪をはじめとする16団体、業態別団体は新薬、ジェネリック医薬品、OTC医薬品、漢方薬など多岐にわたる医薬品を扱う15団体の連合体となっています。（図1参照）



日薬連が運営する医薬品PLセンターは日薬連の加盟団体からの会費によって運営されるセンターで、傘下団体の会員が製造、販売する医薬品に関し、消費者から提起される苦情をセンターが受け付け、これを裁判によらず解決し、解決に導くことを目的としています。

また、日薬連に付設する多くの委員会では傘下の団体から推薦を受けた会員各社の代表者によって委員会毎の専門的なテーマに沿った調査研究、対策立案によって課題解決に取り組み、製薬業界全体の発展、向上に寄

与することを目指しております。（図2参照）  
付設の委員会に加え、その時々業界のニーズに応じ



て時限プロジェクトを立ち上げ、課題解決に努めることもあります。

さらに日薬連の関連法人として一般社団法人偽造医薬品等情報センターの運営にも関与しています。偽造医薬品等情報センターでは近年の社会問題となっている危険ドラッグや偽薬、個人輸入の問題などに関する情報収集、発信を事業として活動しています。

次に、製薬業界にとって大きな動きの見られた平成27年度の出来事について触れさせていただきます。

6月30日に「経済財政運営と改革の基本方針2015」（いわゆる、骨太方針2015、以下「骨太方針」）が経済財政諮問会議での答申を経て、閣議決定されました。

その中に於いて、後発医薬品数量シェア目標について、2017年央に70%以上、2018年度から2020年度末までのなるべく早い時期に80%以上と、具体的な時期及び数値が掲げられたことは、新薬メーカー、ジェネリック医薬品メーカー双方にとって、新たな経営判断が求められる大きなインパクトがありました。

骨太方針では併せて、「臨床上の必要性が高く将来に

わたり継続的に製造販売されることが求められる基礎的な医薬品の安定供給、成長戦略に資する創薬に係るイノベーションの推進、真に有効な新薬の適正な評価等を通じた医薬品産業の国際競争力強化に向けた必要な措置を検討する。」と製薬業界への期待を感じさせる方向性も示されました。

骨太方針を受けて、厚生労働省により9月に策定された「医薬品産業強化総合戦略」においては、「国民への良質な医薬品の安定供給」、「医療費の効率化」、「産業の競争力強化」を三位一体で実現するための、多くの課題と解決の方向性が示されました。中でも、「創薬の研究開発のインセンティブをより高める税制」と「基礎的医薬品の継続的な安定供給を確保するための薬価上の措置」の検討方針が示されるなど、大いに歓迎すべき記載が見られましたが、製薬業界からも意見を提起していく必要があります。

また、世界に先駆けて我が国で開発する最先端の治療薬を優先的な取扱いの対象とする「先駆け審査指定制度」が創設されました。10月には初めて同制度の対象として6品目が指定され、目標審査期間を通常の半分の6ヶ月に短縮するという具体的な目標も示されました。

12月には与党の平成28年度税制改正大綱が纏められ、「セルフメディケーション推進のためのスイッチOTC薬控除（医療費控除の特例）」が創設されました。これは生活者自らが自身の健康に関心を持ち、健康寿命の延伸を目指して、健診等と共に、スイッチOTC薬の活用を進めることにより、所得控除が受けられ、医療費の最適化に繋がることが期待されます。新しい税制が生活者のためにより良い税制となるように今後の普及啓発、並びに活用促進が望まれます。

12月にはさらに、中医協において「平成28年度薬価制度改革の骨子について」が纏められました。この中では、イノベーションの評価及び医薬品の安定供給という観点から、製薬業界にとってポジティブな内容として、新薬創出・適応外薬解消等促進加算の試行の継続と先駆け審査指定制度加算への見直し、基礎的医薬品の薬価を下支えする新たな制度の導入が上げられます。一方、後発医薬品の初収載価格のさらなる引下げ、後発医薬品への置き換えが進まない長期収載品の特例引き下げ（いわゆる、Z2）の範囲拡大に加えて、年間販売額が1千億円等を超えて当初予測より一定程度拡大した品目に対してイノベーションの評価と逆方向に働く特例再算定ルールが新設されることとなり、製薬業界にとって非常に厳しい結果となりました。

新薬を生み出す環境が整備され、製薬企業が安心して研究開発に投資できることが日本の成長戦略に資する革新的な新薬創出に繋がるものと考えます。また、ジェネリック医薬品、スイッチOTC医薬品について、いずれも新薬が生まれにくいことには成長に資する新製品がいつか途絶えてしまいます。この様に日本において製薬産業が成長していくためには、引き続き改善を求めて訴え続けなければならない課題を多く残した薬価制度改革

となったと感じております。

最後に自分自身が患者となり、くすりに触れ、体感した事例を紹介させていただきます。

それは突然に襲い掛かって来ました。とある週末、いつもの様に仕事を終えて帰路についた地下鉄の駅でのことでした。右耳に突然の耳鳴りが起こったと思えば、すぐに耳鳴りは治まったのですが、そのあと右耳の聴覚が無くなっていることに気付きました。

突発性難聴は少しでも早い治療開始が治療成績に大きく影響するので、近くの耳鼻科医院で紹介を受けてE病院を受診しました。

E病院では聴力検査と診察の結果、10日間の入院加療が必要と診断されました。

ともあれ現実を受け止めるしかなく、入院開始と同時に私の突発性難聴の治療との戦いが始まりました。

入院1日目、病室でバーコードの付いたリストバンドを巻かれ、全ての処置の際にリストバンドのバーコードを読み取ることによって患者識別、医療過誤防止の入念なチェックが行われました。

治療はまず麻酔科外来での星状神経節ブロックの治療からです。星状神経節ブロックの治療の前には看護師が前後で血圧の測定を行い、安全に治療が出来る様に注意を払っています。

次は高圧酸素療法の治療です。治療室に着くとリストバンドのバーコードをチェックして血圧測定が行われました。高圧酸素療法は大きなガスボンベの様なカプセルの中で氏名が記載されたマスクのぶら下がった席に座って約2気圧の高圧酸素の吸入治療を受けました。

治療は続いてステロイドの点滴の開始です。初回投与量はステロイド製剤の8mgからスタートです。ステロイドの点滴が毎日継続されるために左前腕内側に柔らかい留置針が固定され、1時間に設定して投与します。この際にもパソコンに接続されたバーコードリーダーをリストバンドのバーコードと照合して確認を行う医療過誤防止への配慮が伺われました。

2日目からの入院治療はステロイドの点滴、午前と午後星状神経節ブロック、高圧酸素療法の繰り返して10日間の入院は終了しました。

この様に自分が患者の立場に立たされて医薬品の有難みとそれに伴う情報の重要性を肌で触れて感じました。

医療スタッフが一生懸命の無い治療に取り組んでいる一方で医薬品の安全性情報隠えいや誇大広告に対する行政処分のニュース、承認書と異なった製造方法での製造に対する行政処分のニュースなどが聞こえてきます。

医薬品業界という極めて公益性の高い業界にあるまじきニュースが続きましたが、患者の立場になってみて、くすりは正しい情報を伴ってそれを待つ患者に提供されるべきと改めて感じました。

くすりの適正使用情報の正しい伝達が貴センターの活動によって医療に貢献します様に心よりお祈りさせて頂き、拙い文章の締めとさせていただきます。

## 発刊!『JAPIC医療用医薬品集 普及新版2016』

毎年大好評の『JAPIC医療用医薬品集 普及新版2016』を発刊しました。

本書はコンパクトなA5判で2016年1月までの添付文書情報を収録しておりますので、毎年8月発刊の医療用医薬品集のハンディ版あるいは追補版としてもご活用頂けます。

### 《本書の特長》

- ・「JAPIC医療用医薬品集」収録内容から臨床で利用する頻度の高い〔組成、効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意(相互作用、副作用、妊娠授乳婦投与、高齢者投与、小児投与等)、半減期〕を抽出、要点に絞って編集し、一回り小さいA5判のハンディサイズにまとめました。
- ・2016年1月時点までの約2,200成分、約21,000製品の最新医療用医薬品情報を収録しております。
- ・医療用医薬品集に比べページ数は約半分となり、価格もお求めやすくなっております。



価格:4,800円(+税)。A5判 約1,800ページ(販売:丸善出版株式会社)

## 薬系大学新1年生向けに 日本の医薬品 構造式集 2016を無償提供!

薬学教育支援の一助として、本年度も3月末に日本の医薬品 構造式集 2016を無償提供しました。薬系大学に入学予定の1年生向けに「日本の医薬品 構造式集」のご利用の希望数を伺い、本年度は14,000冊を超える数の回答が寄せられ、3月末に送付いたしました。

医薬品についての知識や技能の習得を補い、いづらかでも薬学と薬剤師教育の発展と高度化にお役に立ちたいとの思いから、薬系大学への「日本の医薬品 構造式集」の無償提供を毎年実施しており、提供先大学からは、教育現場で広く有効に利用されているとのご報告をいただいております。

このような事業を継続できますのもJAPIC会員の皆様のご支援の賜物と感謝しております。



### 日本の医薬品構造式集

- ・「JAPIC医療用医薬品集2016」収録成分から一部の高分子製剤、低分子製剤などを除く約1,400成分の構造式を収録しております。薬剤師はじめ化学、薬学領域の学生・研究者にとって不可欠な内容です。
- ・各成分には構造式のほか、一般名・化学名・薬効分類・効能効果・CAS Registry number・分子量・分子式を記載しております。

価格:1,800円(+税)。B5判 約200ページ  
(販売:丸善出版株式会社)

## 平成28年度JAPICユーザ会開催案内

平成28年度のJAPICユーザ会を下記の日程で開催します。

詳細は次号及びホームページでご案内します。

- ☆平成28年6月3日(金) 13:00~17:00 大阪 大阪ブリーゼプラザ  
 ☆平成28年6月7日(火) 13:00~17:00 東京 日本薬学会長井記念ホール

## 平成28年度 学会等 出展予定

| 大会名                   | 期間         | 開催地              |
|-----------------------|------------|------------------|
| 第19回 日本医薬品情報学会総会・学術大会 | 6月4日~5日    | 昭和薬科大学           |
| 国際モダンホスピタルショウ2016     | 7月13日~15日  | 東京ビッグサイト         |
| 第49回日本薬剤師会学術総会大会      | 10月9日~10日  | 名古屋国際会議場・名古屋学院大学 |
| 第22回日本薬剤疫学学会学術総会      | 11月18日~20日 | みやこめッセ           |
| 第36回医療情報学連合大会         | 11月21日~24日 | パシフィコ横浜          |

\*開催内容につきましては変更される場合があります。

## 発行しました。

### JAPICガイド2016

4月に2016年版を発行しました。本書はJAPICの事業活動を一覧でき、内容を簡単に把握できることを目的に毎年発行しております。JAPICの会員制度をはじめ、医薬品・医療機器の安全性に関する情報提供、電子データ、医薬品情報に関するデータベース、医薬品情報に関する出版活動等についてそれぞれの概要、特長、利用方法などを掲載しております。また、附属図書館主要蔵書リストも掲載しております。JAPICのサービスや全体像を把握する際の参考資料としてご利用ください。ご希望の方には無料でお送りしますのでお申し込みください。

お問合せ先: 業務・渉外担当 (TEL:0120-181-276)

# 最近の話題

## 不測の災害発生に備え

一般社団法人宮城県薬剤師会 常任理事  
災害対策委員会委員長  
高橋 文章 (Takahashi Fumiaki)



### 直感は大切。

自身が被災した場合、とりあえず最低限の仕事ができる体制に近づけることを優先し、事後被害状況の掌握と問題点の解決に努力する事になる。その行動の基本となるのは自分と家族その他関係者の安全確保と二次災害の防止である(一部の特殊な任務を持つ職種は除く)。医療救護活動をする上で大前提であり、生き延びることがなによりも重要である。

非常時はマニュアルを見ながら行動する余裕はない。命の危険を感じたら右に行くか左に行くか、直感に従うしかない。その直感を正しい方向で実行できるように鍛えるのが想定と訓練であり、震災後に災害関係の研修会等が盛んになっていったのは大変心強い限りである。

我々は被災した2011年以降に課題を抱え、その多くはまだまだ未解決な部分も少なくない。

宮城県薬剤師会災害対策本部として対応した事を列挙すると、災害対策本部の設置、災害掲示板・SNS・電子メール等を使用した情報収集、関係団体との災害救助協定による対応、現地視察、支援薬剤師の受け入れと派遣、支援拠点での業務調整、支援物資の受け入れと仕分け、支援薬剤師及び医薬品の搬送、他団体由来支援医薬品の掌握と管理、災害救助法下での薬局業務等費用弁償関係業務、処方箋医薬品・保険診療関係の取り扱い・被災者の公費負担医療の取り扱い・被災者に係る保険者証等の問題・医療麻薬の取り扱い(県を移動しての)、施設間での医療機器・医薬品の融通について等の対応、義援金の扱い、地域医療再生支援、未使用支援医薬品の整理回収と活用等、非常に多様な業務があり、その一部は未だ復興支援として継続している。

### 「Mobile Pharmacy」

東日本大震災は医療機関に壊滅的損害をもたらし、薬剤師会は支援活動に奔走したが、被災状況は想定をはるかに超え、既存の災害対策マニュアルの多くは機能しなかった。一方で震災は数々の教訓と知見を供与した。それらを踏まえ、ライフライン喪失下の大規模被災時に通常の調剤と医薬品の供給が可能な自立した医療支援ユニット「Mobile Pharmacy」(以下MP)を開発した。

我々はMPに求められる機能を災害時の事例に合わせて災害対策機能と薬局機能に分類し、優先度をつけて検討した。災害対策機能では、1.車道分断時の機動性 2.医薬品、精密機器搬送の安定性 3.断水、停電対応 4.通信機能等の確保が挙げられた。薬局機能では 1.衛生的調剤環境 2.自動分包機、電子天秤、保冷庫、情報処理PC等の機材と電源 3.水剤の調整、洗浄用の水源 4.汎用医薬品400品目程度の確保が挙げられた。

これらの条件をふまえ、薬局機能の維持並びに現地までの移動を両立する特殊車両という結論に至り、関係各社と協議しMPを開発した。

MPは薬事法で定める「薬局」に該当せず、災害救助法適用地域での臨時的な医薬品供給手段と位置づけている。従って、自治体との災害時支援協定の際に予めMP活用について言及し、緊急車両指定、優先給油等に関し緊密な調整が必要である。MPは各種システムがダウンする災害時において、医療チームとの連携、消費医薬品集計による正確で迅速な補給ラインを確保し、医療情報発信基地としても十分機能し得る可能性を持つ。

更にMP支援車両として小型の4輪駆動車を、先導及び設置地周辺における物資並びに薬剤師移動手段確保のため追加導入した。今後も災害に関連する様々な広報企画または他県のMPと連携し、広く周知を図りたい。

## 災害処方せん

宮城県薬剤師会は東日本大震災発災直後より災害対策本部を設置し、津波による医療提供施設の被害が甚大であった沿岸部を中心に、各都道府県から派遣された延べ約3,800人（宮城県薬剤師会資料による）の支援薬剤師の協力の下、被災地支援を行った。各地の避難所近くに仮設診療所が開設され、当薬剤師会が運用した「災害時処方せん」を基に医薬品が交付された。当時は様々な医療団体に所属する医師、薬剤師が活動し、個別に持参した薬剤を投薬する例も多数あったが、対策本部に登録した支援薬剤師が広義の調剤・投薬を実施した事例については、ほぼ全ての処方せん回収が可能であった。回収した災害時処方せんは8,000枚を優に超えた。当県災害対策委員会は、これを解析することで今後の災害備蓄医薬品に用いる目安の一つになり得ると考える。

災害時処方せんの解析方法を検討するに当たり、データ入力の方法、その後の解析に必要な項目を踏まえ、保険薬局で用いられるレセプトコンピューター（レセコン）を用いることを決定し、通常の保険調剤に用いる情報を可能な限り入力した。レセコンは薬価改定の影響を回避するため、震災当時から改訂していないものを選定した。入力完了後各々の目的に応じ数値、情報を出力し、処方解析をしている。

入力した災害時処方せんは、2011年4月1日～6月30日の90日間で8,389枚（5月22日現在）であった。処方せんを発行した医師数は、延べ1,460名、処方せんを発行した場所は気仙沼市役所、市民会館等の避難所を含め78か所に及んだ。患者は男性1,505名、女性2,091名、合計3,596名、平均年齢は56.4歳であった。使用した医薬品品目数は935種類であった。

東日本大震災後の被災地における患者数推移、薬剤の薬効別使用量、平均の処方薬剤数、平均処方日数、被災直後と2か月後（急性期から慢性期）医薬品使用傾向の変化、使用頻度の高かった薬剤、災害備蓄医薬品、被災地支援医薬品として事前に有効な薬剤等今後の災害対策への指標の一つとして、解析結果を様々な形で提供していきたいと考えている。

保険医療従事者である薬剤師は通常勤務（任務）があり、大災害が起きたからとはいえいつもの職務を停止できない状況が多い。単に薬剤を搬送、投薬するのみならず、一般用医薬品、健康食品供給、被災者訪問、お薬相談、他職種連携、公衆衛生、更には支援薬剤師の派遣分配コーディネート等、支援活動は多岐に及び、数多くの知見や教訓を得た。

我々は宮城県沖地震を想定し、予め決めておいた行動が良い結果を生んだものと、対策が不十分だったものが、その後の反省で明確になった。微細な事象に対し詳細な分析を蓄積することこそが、次回の備えに信頼性を加える結果となると信じている。

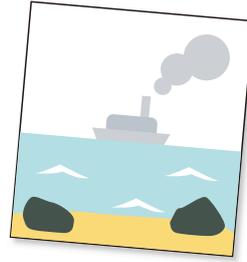


# くすりの散歩道

NO.95

## くすり ことば ころろ

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当  
山田 耕司 (Yamada Koji)



思えば遠くへ来たもんだ  
此の先まだまだ何時までか  
生きてゆくのであろうけれど  
生きてゆくのであろうけれど  
.....  
なんだか自信が持てないよ

これは中原中也の詩、「頑強な歌」を一部抜き出したものです。みなさんはこの一節を読んでどのように感じられるでしょうか。12歳の冬に聞き、見たどこの港の空で鳴った船の汽笛、その蒸気を28歳の中也が思い出して歌った詩だそうなのですが、私はこの詩から、中也が生きていることに対して苦しさ、生きづらさのようなものを感じていたのではないか、というようなことを思っています。私の手元にあるこの詩集のあとがきには、次のようなことが書いてあります。

『茨木の子さんから、人がこの世に生まれてくるのは「はつらつとこの世界を味わえ」という宇宙の善意だと学び、谷川俊太郎さんからは、詩は幸せを書くもの、その幸せは人を幸せにする、と教わりました。(略) 中也の詩を読んでみて、そういう善意や幸せとは真逆の、悲しみや絶望や不幸せに、中也の詩が満ちていると知りました。』

このような中也の悲しみや絶望や不幸せといったものは、いったいどこから来たのでしょうか。

心的外傷後ストレス障害 (PTSD) という言葉があります。「強い外傷的なストレス因子となるものを見たり、聞いたり、あるいはそれに巻き込まれたりした後でおこる疾患」のことを指し、多くの方が聞いたことのあるものかと思えます。

PTSDというと、災害や事故、戦争体験、強姦のような犯罪被害といった、大きなショッキングな出来事に巻き込まれた後になるもの、と一般的に認知されているかと思えます。しかし、PTSDの指す「心的外傷」を大きく二種類と捉えるという考え方があります。それは、上記のようないわゆる「単回性」のトラウマだけでなく、我慢の限界を超えるような強いストレスを継続的に受けることによってもPTSDという障害が生じる、という考え方は、後者のような反復長期的心的外傷によるPTSDを複雑性PTSDと呼ぶこともあります。

単回性PTSDと複雑性PTSDの大きな違いは、心的外傷を受ける時期にあるといわれます。単回性PTSDの場合多くは、その心的外傷を自我が確立した青年期の後に受けるため、単回性PTSDは確立された自我が損なわれる障害であると言われます。一方、複雑性PTSDの場合、その我慢の限界を超える継続的なストレスとは、家族やその周辺にまつわる幼少期からの暴力や性的な虐待であることが多いとされ、このため、複雑性PTSDは自身の発達そのものが損なわれる障害という言い方がされます。

複雑性PTSDを抱える人の中には、大人になってから精神的な症状が出て、「幼少期の辛い出来事は乗り越えた、いまの自分とは関係がない」と思い込んで、現在の症状と幼少期のトラウマを結びつけることのできない人がいます。しかし、子供の頃の、あまりに大きな悲しみや怒り、恨みといった負の感情は、正しく処理されな

いま、心のどこかにまるで冷凍保存されているかのように残っていることがあるとされ、「解離性の記憶」という呼び方をされます。自分ではあたかもその存在を忘れ去っているかのように思えても、「解離性の記憶」は、ちょっとした仕草や態度、あるいは夢という形をとって表れてくる場合が多くあります。逆に、どうしても治らない癖や態度などがある場合、過去の苦しかった記憶を正しく処理できないまま抱えてしまっている、ということがあり得るかもしれません。

精神疾患の治療というと、抗うつ薬や抗精神病薬、抗不安薬といった投薬治療がまず思い浮かぶ人が多いのではないのでしょうか。しかし、少なくともPTSDについては、このような「記憶」の問題である以上、シナプス間隙でのセロトニン濃度を上昇させるといったことや、GABA受容体におけるγ-アミノ酸の作用を強めるといったことが、果たして本当に根本的な解決に繋がるのでしょうか。投薬治療が精神科医学領域において非常に大きな役割を果たしており、精神疾患患者の苦痛の軽減に非常に役立っていることは疑いようのないことです。しかし、私はやはり、人の心に直接触れることのできるものは言葉なのではないかと思えます。大きすぎて普通にはどうやっても表現することのできないような感情を、言葉にして少しずつ表して、誰かに受け入れてもらうことこそが本当の治療なのではないかと思えます。冒頭の詩に関しても、中也はもしかしたら、詩という表現を通して、自身の抱え込んでいるなんらかの心の傷、「解離性の記憶」に触れようとしていたのかもしれない、というようなことを想像してしまいます。現在では、この「解離性の記憶」を解消する手法として、言葉に加えよりsomaticな「眼球運動」というアプローチを組み合わせたEMDR (Eye Movement Desensitization and Reprocessing) という治療法が確立されており、PTSDに対し臨床的に最も効果がある治療の一つとされています。

複雑性PTSDの大きな核、発達トラウマの別の形としての「解離性の記憶」という書き方をしましたが、いわゆる普通の生活をしている人の中でも、精神疾患としての症状が出るようなことはなくとも、なんらかの「解離性の記憶」を抱え込んでしまっている人の割合というのは実は決して低くはないのではないのでしょうか。日々の生活の中で、自分自身の心と向き合い、もしかしたら正しく処理されていないまどどこかに隠れてしまっているかもしれない昔の辛い記憶ときちんと折り合いをつけていくことができれば、毎日の仕事などでより自分の力を発揮できるようになったり、あるいはそれからの人生が生きやすくなったりするということがあったりするのかもしれない。また、新たな「解離性の記憶」を生まないためには、子供に対して家族がじゅうぶん愛情を注ぐ必要があること、そして社会が安定していることが大前提であることも忘れてはならないと思います。

### 参考文献

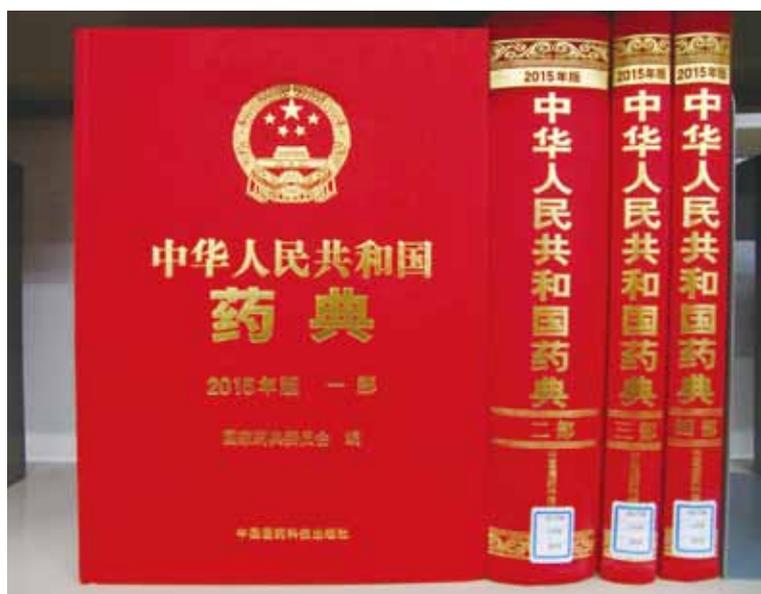
汚れちまった悲しみに……  
詩 中原中也  
発行者 田中和雄  
株式会社 童話屋

# おすすめの 一冊

## JAPIC 所蔵の書籍のご紹介 ～海外の医薬品集編～

### ■ 中华人民共和国薬典 2015年版

|      |  |
|------|--|
| 書名   | 中华人民共和国薬典 2015年版   |
| 出版社  | 中国医葯科技出版社  |
| 著編者  | 国家葯典委員会 編  |
| 出版国  | 中華人民共和国  |
| ISBN | 1部 一部978-7-5067-7337-9<br>2部 二部978-7-5067-7343-0<br>3部 三部978-7-5067-7336-2<br>4部 四部978-7-5067-7539-7 |



1953年創刊の中華人民共和国の葯局方、4版（1985）以降5年ごとに刊行されています。

2015年版は以下の4分冊で構成されており、各分冊の巻末には中文索引と英文索引が収載されています。毎回、数年後に英語版が発刊されています。JAPICは第1版から所蔵しています。

- 一部：葯材和飲片、植物油脂和提取物、成方制剂和单味制剂等 2,598種
- 二部：化学葯品、抗生素、生化葯品、放射性葯品等 2,603種
- 三部：生物制品通則、生物制品137種
- 四部：通則、葯用補料

JAPIC 附属図書館は日本で最も多くの海外の医薬品集を収集している図書館です。

一般公開ですので、どなたでもご利用いただけます。受付カウンターで入館手続きをお済ませの上、お入りください。  
(※貸し出しはいたしませんので、ご了承ください。)

開館日/時間：月～金 9:00～17:30

休館日：土・日・祝祭日、年末年始（12月29日～1月4日）

[お問合せ先] 図書館部門

TEL 03-5466-1827 E-mail: tosho@japic.or.jp

# ☐☐☐ JAPICサービスの紹介 ☐☐☐

## ■ 「PharmaCross」サービス開始のご案内

JAPICが新たに提供する医薬品情報総合検索サービス「PharmaCross」を2016年4月から本格的に開始しました。

JAPICではiyakuSearch、JAPICDOCなどの医薬品情報検索のためデータベースを作成・公開してきました。今般さらに利便性を高め多くの皆様にご利用していただけるよう、JAPICが公開しているデータベースのデータを中心に、書籍、CD-ROMデータ等を集約し、新しい統合データベースを構築し、統合的に検索できる検索システムを「PharmaCross」として公開しました。

簡単な検索インターフェイスには検索語入力支援機能を、従来型の検索インターフェイスには検索式構築支援機能を実装しました。また医薬品成分毎に医薬品情報を集約した「医薬品基本情報」、複数の検索結果を比較するための「比較ツール」等の新しい機能も搭載しました。

### [コンテンツ]

| 検索          | 検索画面へは              | 検索できるコンテンツ  |
|-------------|---------------------|---|
| 簡易統合検索      | トップ画面から             | 医療用添付文書情報（添付文書単位、規格別）<br>一般用添付文書情報<br>医薬文献情報、学会演題情報<br>臨床試験情報<br>日本の新薬承認<br>JDM（JDMご利用ユーザー対象） |
| 添付文書簡易統合検索  | 各画面「添付文書検索」         | 医療用添付文書情報（添付文書単位、規格別）<br>一般用添付文書情報  |
| 添付文書詳細検索    | 添付文書簡易統合検索欄下部「詳細検索」 | 医療用添付文書情報（添付文書単位、規格別）<br>一般用添付文書情報の各項目毎の検索が可能   |
| 文献学会 簡易統合検索 | 各画面「文献学会検索」         | 医薬文献情報<br>学会演題情報  |
| 文献学会 詳細検索   | 文献学会簡易統合検索欄下部「詳細検索」 | 医薬文献情報<br>学会演題情報<br>各項目毎の検索と医薬文献情報には副作用情報と原因薬のリンク検索   |

## <主な機能>

### 簡易統合検索

JAPICのコンテンツをワンクリックで総合的に検索し、医薬品情報を収集します。  
 予測候補を表示するサジェスト機能や関連用語を実装し、検索語入力を支援します。  
 医薬品成分毎に、医薬品情報を集約した「医薬品基本情報」を検索・表示します。

### 詳細検索

医薬文献・学会演題情報と医療用・一般用添付文書情報では詳細検索を用意しています。  
 データベースの医薬品名、副作用等の項目を指定して検索するもので、AND・OR・NOT等の演算子や括弧を使った検索を行うことができ、検索式構築支援機能も実装しています。

### 利用者個人領域（マイフォルダ）の設定

検索に使用した検索式や検索結果を、利用者毎の個人領域（マイフォルダ）に保存できます。マイフォルダに保存した検索結果を個人で編集・加工し、また複数の検索結果を比較する機能も実装しています。

### ニュース画面

TOP画面にはJDM HeadlineやPMDAのメディナビ、厚生労働省 医薬品・医療機器安全性情報をご覧ください。



[お問合せ先] : 事務局 業務・渉外担当 (TEL: 0120-181-276)

# ❖ JAPICサービスの紹介 ❖

## ■ 生物由来製品の感染症情報提供サービス

### ・背景

改正薬事法（平成14年7月公布、平成15年7月施行）により、特定生物由来製品・生物由来製品に関する感染症定期報告の義務化を受け、「生物由来製品の感染症定期報告制度」に伴う情報提供を行うサービスとして、「JAPIC-Q Plus」、「JAPIC Daily Mail Plus」、「外部データベースを利用した文献検索サービス」を提供しています。

### ・感染症情報提供サービスの種類

「JAPIC-Q Plus」、「JAPIC Daily Mail Plus」、「外部データベースを利用した文献検索サービス」の概要を下記の表にまとめました。

| 名称   | JAPIC-Q Plus   | JAPIC Daily Mail Plus   | 外部データベースを利用した文献検索サービス                    |
|------|--|---|--|
| 収集対象 | 生物由来製品の由来となる生物、原材料、原料又は材料による感染症、人獣共通感染症など              |   |  |
| 情報源  | 当局から目安として提示された「文献・学会リスト」記載の国内発行の雑誌（25誌）および国内開催学会（24学会） | WHO、OIE、EU、各国機関（米、英、カナダ、独、豪、日本など）のホームページ約50サイトからの情報およびJAPIC Daily Mail <sup>*1</sup> で提供した感染症関連情報 | MEDLINE                                  |
| 提供内容 | ご登録の動物種（ウシ、ブタ、ヒツジ等）ごとに検索した結果                           | 日本語の概要、キーワード（感染症、動物種）、該当文書へのリンクなど   | ご登録の動物種（ウシ、ブタ、ヒツジ等）または医薬品ごとに検索した結果および検索式 |
| 提供方法 | 紙媒体またはCD-ROMまたはe-mail                                  | e-mail (Excelファイル)  | e-mail                                   |
| 提供頻度 | 月1回（月初め）   | 週1回（毎週月曜日）  | 月2回                                      |

\* 収集範囲とするヒトにおける重大な感染症および人獣共通感染症は随時更新・追加しています。

\* 文献検索サービスは、情報源の選択から提供頻度までご要望の内容に応じて提供します。

※1: JAPIC Daily Mailとは、医薬品等の安全性に関する国内外の規制措置情報を提供するサービスです。

## ・各サービスご利用のメリット

### <JAPIC-Q Plus>

国内発行の雑誌と国内開催の学会から生物由来製品による感染症の情報を、予めご登録いただいた動物種（ウシ、ブタ、ヒツジ等）ごとに検索し、その結果を月1回提供します。

情報源となる国内発行雑誌（25誌）と国内開催学会（24学会）は当局から目安として提示されたものです。

動物種を登録することにより、感染症情報を定期的に入手でき、収集労力と費用の節減ができます。

### <JAPIC Daily Mail Plus>

有用な感染症情報が掲載される、WHO、OIE、EUや各国機関のホームページの生物由来製品・感染症関連情報をまとめて収集できます。

上記のサイトに加え、JAPIC Daily Mailでお知らせする外国規制当局による医薬品等の安全性に関する措置情報からも、生物由来製品における措置情報（感染症に関するもの）を抜き出し、週1回まとめてお知らせしています。

エクセルファイルでの提供となりますので、オートフィルタ機能を使用し必要な動物種での絞り込みができます。

### <外部データベースを利用した文献検索サービス>

感染症定期報告に対応したデータベースの定期検索サービスです。

ヒトにおける重要な感染症及び生物由来製品に使用される原材料、原料又は材料の由来となるヒトその他の生物（植物を除く）における人獣共通感染症情報について、動物種毎または医薬品毎に定期的にデータベースを検索し、検索結果を電子メールにてご提供いたします。

データベースの選択から、検索条件の設定まで、検索のエキスペートがご要望に応じて組み立て、ご提案するカスタマイズ性の高いサービスです。

\*お問合せ、ご質問等は業務・渉外担当（TEL：03-5466-1812、E-mail：gyoumu@japic.or.jp）までご連絡ください。

# 外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より — (抜粋)

2016年2月1日～2月29日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.538-541)の記事から抜粋

## ■米FDA

- Drager Medicalの人工呼吸器Emergency Transport VentilatorsのOxylog 2000 Plus, 3000、および3000 PlusのClass Iリコール：システムエラーによる人工呼吸療法が中断する可能性により  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm485807.htm>>
- 米FDAは米国でのジカウイルスの血液を介した伝播リスクを低減するための勧告を発行  
<<http://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm486359.htm>>
- PentaxのED-3490TKビデオ十二指腸検査用内視鏡：FDA Safety Communication—Pentaxは再処理方法を検証  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm486887.htm>>

## ■Health Canada

- Summary Safety Review : cisplatin—静脈内血栓（静脈血栓塞栓症）の潜在的リスクに関する評価  
<<http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/reviews-examens/cisplat-eng.php>>
- Summary Safety Review : piperacillin含有製品（単剤またはtazobactamとの配合剤）—好酸球増加と全身症状を伴う薬物反応／薬疹（DRESS）の潜在的リスクに関する評価  
<<http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/reviews-examens/piperacill-eng.php>>
- Summary Safety Review : pseudoephedrine含有OTC製剤—不十分な血液供給による大腸の炎症および損傷（虚血性大腸炎）の潜在的リスクに関する評価  
<<http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/reviews-examens/pseudoephedrine-eng.php>>

## ■EU・EMA

- News and press releases : EMAはROCKET試験におけるデバイスの欠陥がXareltoの安全性に影響を与えないと結論付けた  
<[http://www.ema.europa.eu/ema/index.jsp?curl=pages/news\\_and\\_events/news/2016/02/news\\_detail\\_002465.jsp&mid=WC0b01ac058004d5c1](http://www.ema.europa.eu/ema/index.jsp?curl=pages/news_and_events/news/2016/02/news_detail_002465.jsp&mid=WC0b01ac058004d5c1)>

## ■英MHRA

- 心不全におけるspironolactoneとレニン・アンジオテンシン系製剤：致死的な高カリウム血症に関する潜在的なリスク  
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/spironolactone-and-renin-angiotensin-system-drugs-in-heart-failure-risk-of-potentially-fatal-hyperkalaemia>>
- valproateと異常な妊娠転帰のリスク：新たな情報提供資料  
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/valproate-and-of-risk-of-abnormal-pregnancy-outcomes-new-communication-materials>>

## ■独BfArM

- dihydroergotamineおよびdihydroergotoxine：承認差し止めの延長  
<[http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RV\\_STP/a-f/dihydroergotamin3.html](http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RV_STP/a-f/dihydroergotamin3.html)>
- SGLT2阻害剤：糖尿病性ケトアシドーシス（特に非定型症例）のリスクを最小化するためのPRACによる勧告  
<[http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RV\\_STP/s-z/sglt2-hemmer2.html](http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RV_STP/s-z/sglt2-hemmer2.html)>

## ■仏ANSM

- Tachosil (human fibrinogen, human thrombin)：腸閉塞のリスク低減のための使用に関する新たな勧告；医療専門家向けレター  
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Informations-de-securite-Lettres-aux-professionnels-de-sante/Tachosil-nouvelles-recommandations-d-utilisation-visant-a-limiter-le-risque-d-occlusion-intestinale-Lettre-aux-professionnels-de-sante>>
- aripiprazole (Abilifyおよびジェネリック) の適応外使用および自殺リスクに関する注意喚起  
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Points-d-information-Points-d-information/Mise-en-garde-sur-l-utilisation-hors-AMM-de-l-aripiprazole-Abilify-et-generiques-et-sur-le-risque-de-suicide-Point-d-information>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報（海外）担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail（有料）もしくはJAPIC WEEKLY NEWS（無料）のサービスをご利用ください（JAPICホームページのサービス紹介：<<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照）。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当（TEL 0120-181-276）までご連絡ください。

## 【新着資料案内 平成28年2月1日～2月29日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.japic.or.jp/iyaku/index.html>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈 配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順 〉

| 書名               | 著編者       | 出版者       | 出版年月    |
|------------------|-----------|-----------|---------|
| 中华人民共和国药典 2015年版 | 国家药典委员会 編 | 中国医药科技出版社 | 2015年6月 |

## 情報提供一覧

### 【平成28年3月1日～3月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

| 情報提供一覧  | 発行日等      | JAPIC作成の医薬品情報データベース              | 更新日   |
|---|-----------|----------------------------------|---|
| 〈出版物・CD-ROM等〉   |           | 〈iyakuSearch〉 Free               | <a href="http://database.japic.or.jp/">http://database.japic.or.jp/</a>                 |
| 1. 「添付文書入手一覧」2016年2月分 (HP定期更新情報掲載)                                  | 3月1日      | 1. 医薬文献情報                        | 月 1 回   |
| 2. 「一般用医薬品 (経済課コード)」2016年2月分 (HP定期更新情報掲載)                           | 3月1日      | 2. 学会演題情報                        | 月 1 回   |
| 3. 「医療用医薬品集 普及新版2016」   | 3月末       | 3. 医療用医薬品添付文書情報                  | 毎 週   |
| 4. 「日本の医薬品 構造式集2016」  | 3月末       | 4. 一般用医薬品添付文書情報                  | 月 1 回   |
| 5. 「JAPIC NEWS」No.384 4月号   | 3月25日     | 5. 臨床試験情報                        | 随 時   |
| 〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)                         |           | 6. 日本の新薬                         | 随 時   |
| 1. 「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」 No.1022-1026 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)  | 毎 週       | 7. 学会開催情報                        | 月 2 回   |
| 2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」                                  | 毎 週       | 8. 医薬品類似名称検索                     | 随 時   |
| 3. 「JAPIC-Q Plusサービス」   | 毎月第一水曜日   | 9. 効能効果の対応標準病名                   | 月 1 回   |
| 4. 「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」 No.3597-3618 | 毎 日       | 〈iyakuSearchPlus〉                | <a href="http://database.japic.or.jp/nw/index">http://database.japic.or.jp/nw/index</a> |
| 5. 「JAPIC Weekly News」 No.541-545                                   | 毎週木曜日     | 1. 医薬文献情報プラス                     | 月 1 回   |
| 6. 「Regulations View Web版」 No.330-331                               | 3月11日・25日 | 2. 学会演題情報プラス                     | 月 1 回   |
| 7. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」 No.632-635                       | 毎週月曜日     | 3. JAPIC Daily Mail DB           | 毎 日   |
| 8. 「PubMed代行検索サービス」   | 毎月第一・三水曜日 | 4. Regulations View DB (要:ID/PW) | 月 2 回   |
| 9. 「JAPIC医療用医薬品集2016」更新情報2016年3月版                                   | 3月31日     | 外部機関から提供しているJAPICデータベース          |   |
|   |           | 〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉          | <a href="http://jdream3.com/">http://jdream3.com/</a>                                   |
|   |           | 〈株式会社日本経済新聞社から提供〉                | <a href="http://telecom.nikkei.co.jp/">http://telecom.nikkei.co.jp/</a>                 |

# 医療用医薬品集

## 普及新版2016

2016年  
3月発行



本書は「JAPIC医療用医薬品集(B5判 約4,000頁)」をもとに臨床の場で利用される際に必要な項目を選択し、取り扱いやすく、持ち運びに便利なちょっと大きめのポケットサイズ(A5判)に再構成したものです。成分ごとに添付文書記載の効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意等、及び半減期情報等を記載。約2,200成分、約21,000製品の医療用医薬品情報を2016年1月時点の最新情報で収録。

### ■掲載内容

- ◎一般名、製品名
- ◎承認日(一部製品)
- ◎組成(規格)
- ◎効能・効果、用法・用量
- ◎警告
- ◎禁忌、原則禁忌
- ◎慎重投与
- ◎重要な基本的注意
- ◎相互作用(併用禁忌・併用注意)
- ◎副作用
- ◎高齢者への投与
- ◎妊婦・産婦・授乳婦等への投与
- ◎小児への投与
- ◎臨床検査結果に及ぼす影響
- ◎半減期

価格：**4,800**円(+税)

A5判／約1,800頁

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行 TEL 0120-181-276  
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

# Garden

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

## せいようあぶらな

誰でも知っているこの写真の菜の花の和名を正確に答えられる人は少ない。最近、各地に植えられている菜の花は明治時代に西洋から菜種油の原料として輸入されたもので、弥生時代に中国から伝来した古来の「あぶらな」を凌駕している。アブラナ科 (Brassicaceae) を代表する植物。科名かつては花卉の形から十字花科 (Cruciferae) と呼ばれたが、代表する植物の属名に改められた。(ky)



JAPICホームページより  
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。